

## 千葉県大網白里市・無農薬農業に関する研修（田植え体験と農家の方へのヒアリング）

2025年4月26日（土）に、千葉県大網白里市の無農薬栽培田で田植えを体験しました。事前に田植えについての勉強会を開催し、基本的な知識を学んだうえで田植えを体験しました。

実際に田植えを体験する前に、まずは機械（田植機）による田植えを見学しました。この機械は作業スピードが速く、1列の田植えがわずか1分で完了します。

稲作では、田植えの際と、田植えから数十日後の2回に分けて肥料をまく必要があります。今回見学させていただいた農家の方は、田植えの際にペースト状の肥料をまいていました。写真の苗の根元にある白い球体は追肥で、数十日後に土の中で溶け出す仕組みになっています。これにより、後日あらためて追肥を行う手間を省くことができます。一般的には、樹脂でコーティングされた肥料が田植えと同時にまかれています。このタイプの肥料も追肥の手間を省けますが、樹脂のコーティング部分が自然界で分解されず、プラスチックとして残留するという課題があります。今回見学させていただいた農家の方は、この問題をより多くの農家に知ってほしいと話していましたが、現実的にはコスト面でのハードルが高いとも述べていました。

田植機の機能の紹介もしていただきました。高性能で作業効率はかなり高いですが、この機械の販売価格は600万円程度と高額だそうです。ただし、農協からの借入金を受けることができます。



その後、実際に田植え作業を行いました。この日は暑すぎず寒すぎず、ちょうど良い気候でした。初めての田植え作業だったため、慣れずに田んぼの中で転んでしまいました。泥の中を歩くのは簡単ではなく、一歩進むたびに足を抜くのがとても大変でした。転ばないように棒を使いながら慎重に進みました。中国で田植えの経験がある学生は、日本の田んぼの土壌は中国のものより柔らかいという印象を持ったそうです。

田植えでは、1回で3~4本の苗を植えます。タニシは稲を食べてしまうため、見つけた場合は、遠くへ捨てます。田んぼに印をつけて、まっすぐ苗を植えられるようにしていましたが、足場が悪いのもあってか列を揃えて植えるのがとても難しかったです。機械を用いた田植えがどれだけ効率が高いのか実感することができました。

今回田植えをさせていただいた田んぼでは無農薬栽培が行われていましたが、虫の姿は見られませんでした。しかし、田んぼに置かれていた苗にはカエルの卵がついていましたので、やはり無農薬栽培は生き物にやさしいのだと思いました。鳥やカエルの鳴き声が聞こえる中での田植えは、自然の豊かさを実感できるものでした。

そして、楽しみにしていた昼ごはん。カレーは肉の旨みがしっかり染み込んでいて、とても美味しかったです！このカレーで使われたお米は我々が田植えを体験した田んぼで昨年度にとれたものでした。とても美味しかったので、我々が植えた稲も美味しいお米になってくれたらいいなと思いました。また、今年初のスイカもいただきました。少し時期が早いかなと思いましたが、甘くてとても美味しかったです！



午後は千葉の名産品である落花生(ピーナッツ)を植えました。こちらの畑も同じく無農薬栽培です。こちらでは、土の中から何種類もの虫が出てきました。大きなミミズも出てきてびっくりしましたが、これはいい土である証拠だそうです。

まず、一列に肥料を撒き、その後、鍬を使って土を3回耕しました。そして、第二関節ほどの深さの穴を開け、1つの穴に2粒のピーナッツを丁寧に蒔きました。その後軽く土をかけ、水をたっぷりあげました。無農薬栽培のため、カラスに狙われやすいそうです。無農薬栽培は自然環境や人間の健康にメリットをもたらす反面、虫やカラスに食べられて生産量が劣るというデメリットがあることを改めて学びました。

今回の研修では、無農薬栽培の田んぼや畑は生き物が豊富であることを実感する一方で、無農薬栽培や機械を使用しない農業の大変さを学ぶことができました。

現場で実際に農作業を体験しながら農家の方のお話を聞かせていただくことで、本やインターネットからでは得られない多くの知識を得ることができました。今回の研修で、農業の技術的側面、経済的側面、環境的側面等について多くのことを学ぶことができましたと思います。貴重な経験の機会を設けてくださったみなさまに心より感謝申し上げます。

